

# 第1編 全体構想

「第1編 全体構想」では、都市全体の将来都市構造と都市づくりの基本方針、またそれらを踏まえた都市整備方針をお示しします。

## 第1章 都市づくりの目標

### 1 市が目指す将来像

#### 1-1. 本市が目指す将来像と将来人口

本市では、総合計画において「まちの将来像」を以下のとおり掲げており、都市計画を含む各施策は、この将来像の実現に向けて展開しています。

このため、本計画においても、この「まちの将来像」を目指すべき将来像として設定します。

また、「まちの将来像」の実現へ向けての「目標とする人口」と「都市構造の考え方」については以下のとおりです。

#### 本市が目指す将来像

豊かな自然と歴史・文化につつまれ

人と人がつながる **市民創造都市 高岡**

私たち高岡市民は、「ものづくりの技と心」を礎とし、その英知とたゆまぬ努力によって町民文化の花を咲かせ時代の要請に応えて挑戦と創造を積み重ねてきた先人の志を受け継ぎ、創造的で活力にあふれる高岡らしいまちづくりを実現しなければなりません。

市民一人ひとりが、それぞれの能力を活かして日々活動し、その営みの中で、次代を担う創造性豊かな市民が育ち、新たなまちを創っていくという好循環にある都市を目指します

#### 目標とする人口

平成 47 年（2035 年）の目標人口 **約 150 千人**

この目標人口は、総合計画で掲げる「平成 72 年（2060 年）：125,000 人（政策目標値）」を基本として、平成 47 年（2035 年）時点の中間人口として設定した人口です。

#### 都市構造の考え方

**「コンパクト・アンド・ネットワーク」**

人口減少や少子高齢社会が進行していく中、本市の成り立ちや都市基盤整備状況等を踏まえつつ、各地域の特性に応じた都市機能や居住機能をそれぞれの市街地内に誘導するとともに、それらを公共交通等で結ぶというまちづくりの考え方です。

## 1-2. 本市が目指す都市構造のイメージ

### (1)「コンパクト・アンド・ネットワーク」のまちづくり

先人が長い歴史の中で築き上げてきた市街地を基本としながら、原則、市街地をこれ以上拡大することなく、市街地の外側に広がる農地や自然地の保全を図りながら、人口減少・少子高齢社会の中でも、機能性・安全性・利便性の高い持続可能な都市構造を目指します。

このため、高岡の強みである固有の歴史や文化を持つ各地域の特性に応じて、都心エリア（新高岡駅～高岡駅～中心市街地）には高次都市機能と居住を、周辺市街地エリア（伏木、戸出、中田、牧野、立野・東五位、福岡）には生活サービス施設などの都市機能や居住を、各市街地に緩やかに維持・誘導し、道路や公園などの都市施設や公共施設などの既存ストックを最大限に活用しながら、経済的で環境面に配慮したコンパクトなまちづくりに取り組みます。

これと合わせて、少子高齢社会の中において、過度に車に依存することなく、車を利用できない高齢者等にとっても、徒歩や公共交通を利用し市内を円滑に移動できるよう、それぞれの拠点間の公共交通等をネットワークで結ぶ交通体系を構築し、タクシーも含めた公共交通で拠点等へのアクセスを確保することで安心・快適に暮らし続けられる持続可能な都市構造を実現します。

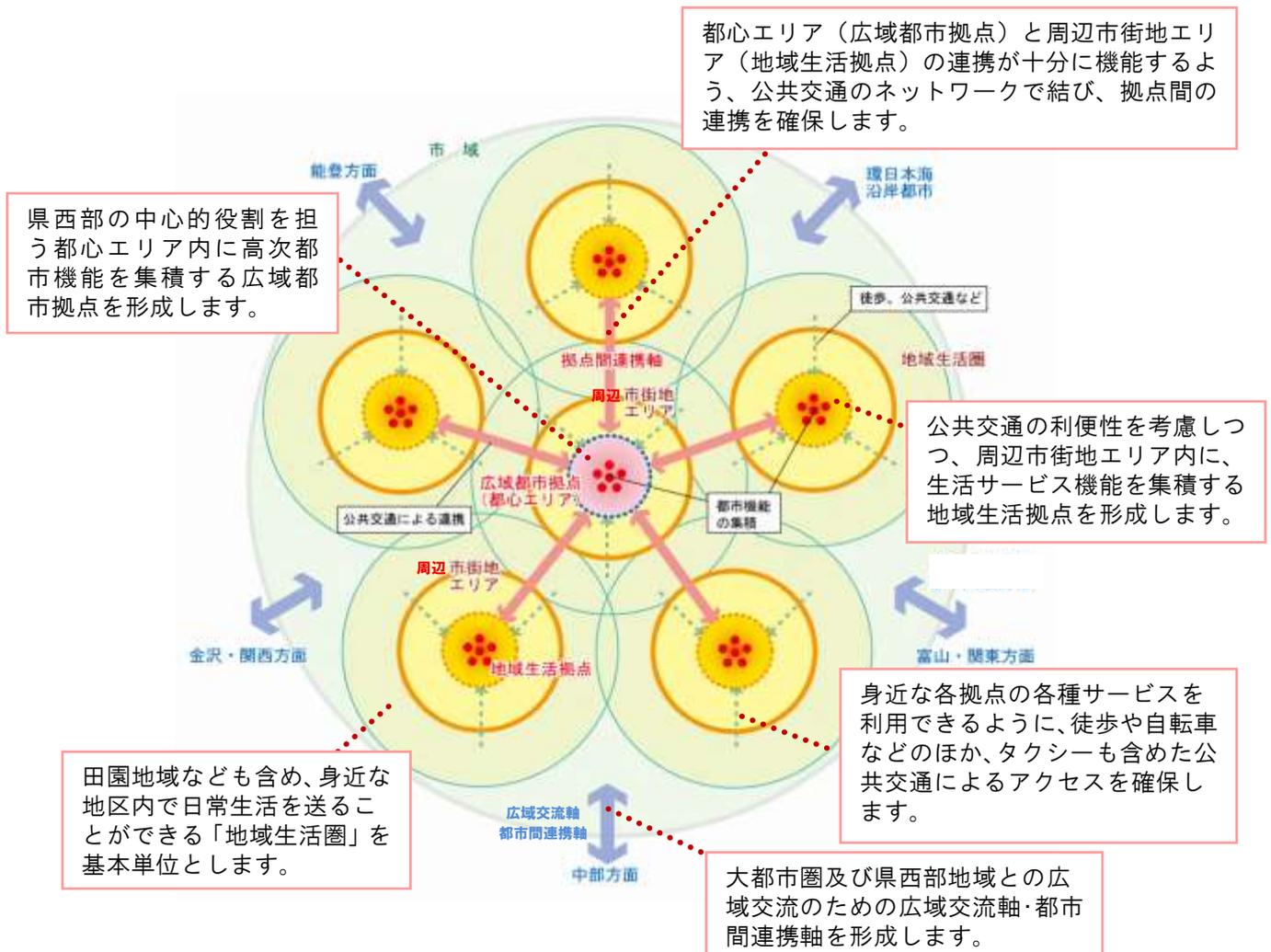


図 「コンパクト・アンド・ネットワーク」のまちづくりのイメージ

## (2)「コンパクト・アンド・ネットワーク」の実現イメージ

コンパクト・アンド・ネットワークの都市構造を実現するため、多くの人々が日常的に利用する都市機能は、徒歩や公共交通でアクセス可能な拠点エリアへの立地を維持・誘導します。ただし、既存の都市機能を短期間で強制的に集約するものではなく、都市の魅力、利便性の向上や居住人口の増加に合わせて、少しずつ再編や集約化を進めていきます。

居住人口についても、都市機能と同じく、拠点をはじめとする市街地内への強制的な転居を進めるものではありません。自動車の利用を中心とした郊外でのゆとりある生活を尊重しつつも、車を自由に運転できない高齢者、子供や障がい者などをはじめとした多くの人々が、徒歩や公共交通を利活用してまちの賑わいを感じながら、安全で利便性がよく、生涯学習、スポーツや家庭菜園などいきいきして生活できるライフスタイルを提案するものです。

このため、新たに本市に移り住む人を含めて、ライフスタイルに合わせて住み替えを検討する人が、徒歩や自転車のほか骨格的な交通ネットワークや、タクシーも含めた公共交通で拠点等へアクセスし利便性の高い生活を享受できるような環境を提供することで、緩やかに居住の維持・誘導を進めます。

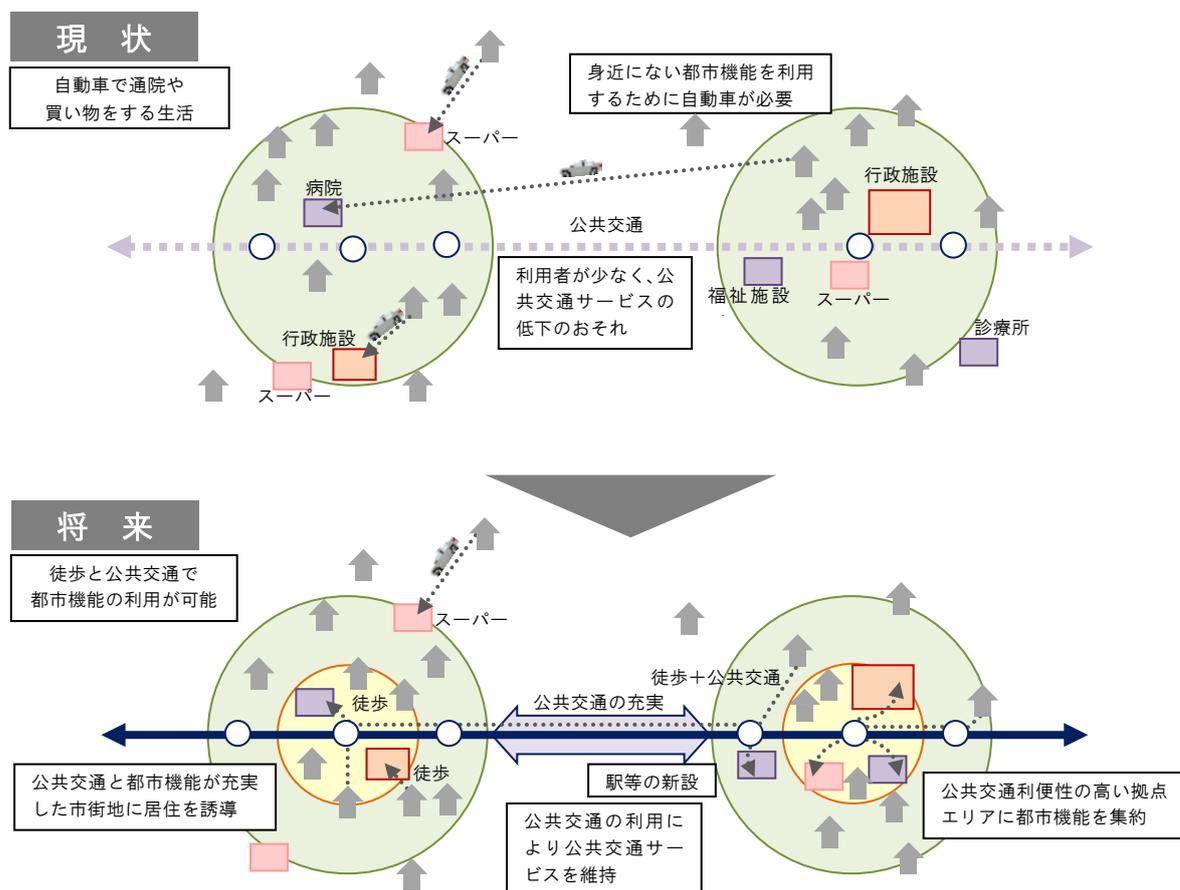


図 「コンパクト・アンド・ネットワーク」の実現イメージ

## 2 都市づくりの基本方針

### 2-1. これまでの基本方針

旧高岡市と旧福岡町の都市計画マスタープランでは、それぞれ次のような都市づくりの基本方針を定めていました。

これまで、これらの基本方針に基づき、北陸新幹線や高規格幹線道路をはじめとする広域交通基盤の整備、高岡駅・新高岡駅周辺の整備や工業団地の整備など、都市の骨格的な基盤整備を進めてきたほか、道路、公園や上下水道などの都市施設の整備や土地利用規制と合わせた民間開発を中心とした宅地の造成などの都市づくりが進められてきました。

#### ■ これまでの都市づくりの基本方針

##### 【高岡市都市計画マスタープラン H17.3 策定】

- にぎわいと活気のある都市づくり
- 交通利便性の高い交流の都市づくり
- 自然・歴史・文化を活かした都市づくり
- 安全で安心して快適に暮らせる都市づくり

##### 【福岡町都市計画マスタープラン（都市づくりのテーマ）H15.3 策定】

- 活力がある快適な空間に 人びとが集い交流があるまち
- 誰もが快適で安心して暮らせ ゆとりとふれあいがあるまち
- 心に残る景観があり 良好な景観を創り出すまち
- 魅力ある便利な空間で うるおいとやすらぎがあるまち

市の新たな将来像である「豊かな自然と歴史・文化につつまれ 人と人がつながる 市民創造都市 高岡」に向けて、「コンパクト・アンド・ネットワーク」のまちづくりにより持続可能な都市構造を実現するため、前計画の考えも引き継ぎつつ、新たに以下に示す、これからの都市づくりを考える上でのキーワードを勘案し、基本方針を設定することとします。

#### ■ これからの都市づくりを考える上でのキーワード

- 公共施設の統廃合・再編、インフラの維持
- 中心市街地活性化、都市機能集約、拠点形成
- 基盤整備、競争力強化、魅力のある働く場の拡大
- 県西部の中核都市、広域交流、拠点間連携
- 文化創造都市、歴史まちづくり、自然・農業との調和
- 災害に強いまちづくり、安全・安心な生活環境

## 2-2. 新たな都市づくりの基本方針

### ■ 都市の活力を生み出すための基本方針

#### ○ 人口減少・少子高齢社会の中で持続的に発展する都市づくり

・民間の活力や資金も積極的に活用しながら、計画的かつ効率的に公共施設の統廃合・再編を図るとともに、これまで積極的に整備を進めてきたインフラの維持に重点を置いた都市づくりへの転換を図ることで、人口減少・少子高齢社会の中でも持続的に発展する都市づくりを進めます。

#### ○ 中心市街地と周辺市街地が連携して躍動する都市づくり

・中心市街地の活性化によって本市全体の賑わいを創り出すと同時に、固有の歴史・文化を持つ周辺市街地においても都市機能が集約した拠点を形成することで、中心市街地と周辺市街地が連携して躍動する都市づくりを進めます。

#### ○ 「ものづくり」を中心に活気ある産業を育む都市づくり

・新たな企業や店舗等の立地に向けた基盤整備と既存産業の活性化を通じて産業の競争力強化を図るとともに、身近な生活圏において魅力のある働く場の拡大を図ることで、ものづくりを中心として活気ある産業を育む都市づくりを進めます。

### ■ ネットワークを強化するための基本方針

#### ○ 広域間と拠点間の交通ネットワークが充実した都市づくり

・本市の強みである広域交通基盤を活かし、県西部の中核都市として、大都市圏や金沢・飛越能などの近隣都市との広域間連携を強化するとともに、市内で暮らすあらゆる人々が自由に移動できるための拠点間連携のネットワークを強化することで、広域間と拠点間の交通ネットワークが充実した都市づくりを進めます。

### ■ 高岡市のまちづくりの基礎となる基本方針

#### ○ 歴史・文化と自然を活かした都市づくり

・他の都市にはない高岡らしさを発揮した文化創造都市の取組、市内各地の歴史・文化資産を回遊できる歴史まちづくりを推進するとともに、自然・農業と調和した緑豊かな都市空間を形成することで、歴史・文化と自然を活かした都市づくりを進めます。

#### ○ 安全・安心で快適に暮らせる都市づくり

・たとえ災害が起きても被害を最小限に食い止めるために、土地利用や基盤整備の面からも災害に強いまちづくりに取り組むほか、犯罪や交通事故のない安全・安心な生活環境を創りあげていくことで、安全・安心で快適に暮らせる都市づくりを進めます。